

令和6年度
地域づくり活動
アシスト事業報告

「にぎやかな過疎をつくる里山の力」 ～窪野町から広がる地域の輪～

自然と伝統が息づく窪野町

松山市南端に位置する窪野町は、約100世帯300人が暮らす中山間地域です。ホタルが舞い、かつては献上米として知られた「窪野米」の里でもあります。令和2年12月に「中山間地区を元気にしよう・暮らしやすい里山にしよう」を合言葉に「くぼの里山会」を発足し、年間を通じて2つの大きなイベントを開催しています。6月の「松山くぼの町ホタル祭り」では、神事に続いて鈴舞や獅子舞などの伝統芸能を披露しました。坊っちゃん劇場などの音楽家によるサウンドイベン



音楽イベント



屋台販売

コーナーも併設し、世代を超えて楽しめる祭りとして定着しています。さらに、今年度からは「親子竹灯籠づくり」や「フォトコンテスト」など県民参加型企画も導入しました。竹灯籠は祭り当日の沿道を幻想的に照らし、フォトコンテスト入賞作品は会場に展示され、来場者の目を楽しませました。



竹灯籠灯

助成事業で広がる交流と発信

もう一つのイベントは、9月の「いよいよくぼの収穫祭」です。全国8選にも選ばれた彼岸花群生地を背景に、約700名が来場しました。屋台では窪野米の炊込みご飯やジビエカレーが人気を集め、子どもゲーム



彼岸花群生地

未来へつなぐ「暮らしたくなる里山」

継続的な取り組みにより、ボランティアの輪も広がり、地域外からの来訪者が増えることで、地元住民の活力にもつながっています。「にぎやかな過疎をつくる」この言葉を胸に、窪野町が他の中山間地域のモデルとなることを願い、今後も活動を続けていきます。



新米販売

の販売、新規就農者との交流、中学生のボランティア体験など、多彩な催しが窪野の魅力を伝えています。

今回の助成金では、地元紹介パネルやサイクリングマップ、収穫祭チラシを作成しました。来場者からは「窪野を知ってまた来たい」との声が多く、情報発信の効果を実感しています。令和7年度には、彼岸花群生地を巡るE-BIKEツアーや企画も進行中です。

くぼの里山会
事務局長 篠原 英行

